

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2019年3月28日）

■第3版 第2刷（2018年9月20日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758113540_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第1章					
22	図6	Na ⁺	K ⁺	2箇所訂正	19/03/28
22	右段 本文下から5行目	これは、 酵素反応でATPを作り出し 、このエネルギーを使って	これは、ATPのエネルギーを使って	赤字部分を削除	19/03/28
23	※11	※11 このポンプをナトリウム-カリウムポンプ(Na, K-ポンプ)と呼び、ATPを得るためにはナトリウム-カリウムATPase(Na ⁺ , K ⁺ -ATPase)という 酵素が関与する 。	※11 このポンプをナトリウム-カリウムポンプ(Na, K-ポンプ)と呼び、ATPを使う 酵素タンパク質であるため 、ナトリウム-カリウムATPase(Na ⁺ , K ⁺ -ATPase)とも呼ばれる。		19/03/28
第4章					
51	表2			※1を参照	18/11/14
第6章					
71	左段 本文下から13行目	ヒト細胞の生存には約2万数千の遺伝子が関与することがわかっているが、 これら遺伝子の1セットをゲノムと呼んでいる 。	染色体に含まれる全遺伝子1セットのDNAはゲノムと呼ばれる(第15章, p192参照) 。また、ヒト細胞の生存には約2万数千の遺伝子が関与することがわかっている。		19/03/28
第13章					
179	解答 & 解説 A4	ピルビン酸はアラ ン ニンへ	ピルビン酸はアラニンへ	赤字部分を削除	18/11/14
第15章					
201	左段 本文下から4行目	ユビキチン-プロテアソーム系^{※8}があり、タンパク質の分解反応を担うリソソームに送られ非特異的に分解される 。これは、ユビキチンで標識されたタンパク質を分解の標的とするための 経路である 。さらに、細胞内のタンパク質を分解するオートファジーが知られている。	ユビキチン-プロテアソーム系^{※8}がある が、これは、ユビキチンで標識されたタンパク質を分解の標的とするための 特異的選択的分解である 。さらに、細胞内のタンパク質を分解するオートファジー- リソソーム系 が知られている。		19/03/28
第16章					
221	表2(左から1列目の2行目)	副甲状腺ホルモ ン 、パラトルモン	副甲状腺ホルモン(パラトルモン)		18/11/27
第17章					
238	表4 説明文		本書では、抗原との反応後、症状出現までに“日”の単位を要するものを 遅延型 、“時間”の単位を要するものを 即時型 と分類しているが、II型・III型アレルギーにおいては 即時型に分類されない場合もある 。	*1, *2の文の次に赤字部分(型についての補足事項)を追加	19/01/30

※1 チロシンについての解説を追加いたします

表2 アミノ酸の極性による分類

親水性アミノ酸	疎水性アミノ酸
アスパラギン酸	アラニン
アスパラギン	バリン
グルタミン酸	ロイシン
グルタミン	イソロイシン
ヒスチジン	フェニルアラニン
リジン	チロシン*2
アルギニン	トリプトファン
セリン	メチオニン
スレオニン	プロリン
システイン	
グリシン*1	

*1 脂肪族アミノ酸に含まれるが親水性である

*2 わずかに水に溶ける（親水性に分類される場合もある）
タンパク質の分子内部に存在するアミノ酸は、疎水性アミノ酸が多い